

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200784		
法人名	社会福祉法人常緑会		
事業所名	星空の都グループホームふるさと	ユニット名	西館
所在地	都城市豊満町2642番地1		
自己評価作成日	令和4年7月20日	評価結果市町村受理日	令和4年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和4年8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宮崎県都城市の山間に位置する特別養護老人ホームの中にあるグループホームです。病院受診や大きなイベント・夜間の宿直など母体施設の恩恵を受けながら、穏やかに暮らしてもらっている。何をしたら入居者が喜んでくださるか、そして自分たちも楽しみながらできることはないか、模索しながら、入居者とご家族、地域の方に助言、要望をいただきながら日々のケアを行っております。グループホームの理念として、「グループホームふるさとだからこそのできる一人一人になった生活の支援」と掲げています。その理念を念頭に一人一人に合わせた生活を、自宅で生活しておられた生活を継続できるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームに隣接しているホームである。金御岳や霧島山が見える環境であり自然に囲まれた穏やかな雰囲気の中生活している。職員は入居者の役割支援を大切に考え自立支援に向けた取り組みを行っている。ホームではお世話になった職員の為に入居者がお弁当を作る取り組みが拡がり、現在では毎月施設内で販売するような取り組みとなっている。地域との繋がりも大切にしており食材は地域の商店から取り寄せている。またコロナ禍でも地域の商店が訪問販売してくれるなど協力関係が築かれている。管理者、職員は理念も毎年振り返り、一人ひとりにあった支援が出来るよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの作成した理念を掲示し唱和している。 コロナで地域に出かけて行ったり交流を図る機会が減少しているが、機会を作って出かけて行きたい。		ホーム全体の理念とユニット毎の理念を掲げ掲示し毎日唱和している。年度末には振り返りの機会を設けており理念の共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナで出かけて行ったり行事を大きく行う事は困難ではあるが、食材の購入などは地域の商店に注文・配達して貰っている		コロナ禍の状況を見ながら隣接の特養やデイサービスとの交流を行っている。地域の商店にも訪問販売に来てもらい衣類の購入を行ったりしている。食材の購入も行っている。2ヶ月毎の「ふるさと通信」も発行し地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域の学校などの教育の場に出かけて行ったりしているが、地域の活動も積極的におこなわれていない状況である			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催自体が難しいが、施設の報告などは書面で行っており、構成員からは意見を回収している		コロナ禍で開催が難しい中活動状況報告を全家族、運営推進会議の構成員に郵送し返信用封筒も同封している。返信があった意見をそのまま議事録として再度郵送を行っている。災害時の出入り口の障害物の除去など意見をサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催自体が難しいが、書面での報告申請などで関わって頂いている		包括の職員と介護保険課の職員が年度毎に入れ替わりで運営推進会議に参加して頂いている。市の職員とは困難事例や事故報告等その都度相談し日常的な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年計画的に研修もあり、意識の確認を行っている。また、委員会によって検討が行われている		管理者が特別養護老人ホームの身体的拘束等適正化検討委員でありその情報をホームに下ろしている。年間計画で研修会も行い身体拘束をしないケアの実践に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画にて確認・意識づけされている。事故の報告など含め予防出来るように朝のミーティングで話し合っている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されている方がいらっしゃり、実践から学ぶこともある			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所や変更時に都度説明し納得頂ける様に努めている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等をお伺いした場合には速やかに報告を行い検討をしている	コロナ禍の状況のため、より密に家族への連絡を行っている。SNSを利用することで写真を載せたりビデオ通話を利用したりしている。家族からの要望で手すりを設置したり入居時の部屋の位置等要望に応えるよう努めている。家族や入居者からの意見を反映できるように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で話合う機会があり、各々の意見が反映、納得できる形で事業に活かされている	毎月の検討会でユニット毎に全職員が参加し話し合いが行われている。職員からの意見で個人面接を取り入れ管理者との話し合いも設けている。他職種も含めた話し合いが行われ意見が反映される取り組みが行われている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標設定なども行いやりがいにつなげている。また、労働時間なども無理のない様に有休など取得しやすい環境である			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修が計画的に組み立てられ、理解度や他のスタッフへの周知も報告書などを通してなされている			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会などで情報交換している			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	調査、情報の共有を行い要望や希望の把握 周知を行い希望に沿える様になっている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	調査等の際に要望をお伺いしている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要がある時に速やかに相談し、いち早く対応できるように努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しみとなることのみではなく、出来る事や出来そうな事を利用者自身に決めて頂き、共同生活をして頂いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共にどうするか考えていく中で一方的ではなく、共に支えていく立場となって頂ける様に参加して頂いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	外出が難しい時期ではあるが、墓参りなど出来る限り支援している		コロナ禍で外出が出来ていないが状況を見ながら墓参りや車窓からの花見を行っている。病院受診には家族の付き添いを行ってもらい、隣接するデイサービスと交流を図るなど馴染みの人や場との関係継続に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の好まれる関わり方で、スタッフが中に入ったり話を伝えたりして、関わりを感じて頂ける様にしている			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自法人内の他の事業所に移動された方にも会う機会を設けたりしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の過ごしやすい様に、ご本人の意思を確認して支援している		モニタリング時に意見を聞き、入居者の日々の言動や家族からの情報より一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、福祉サービス、医療機関よりこれまでの生活に関わる情報を得た上でご本人にもお伺いしている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化する現状の中で日々情報の共有を申送りノートで行い、その時に合った支援に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎のプランの評価、見直しを行いスタッフ全員参加し話し合っている。ご家族は現状難しい状況		毎月のカンファレンスにて全利用者の情報の報告を行い話し合いを行っている。モニタリングは毎月行い見直しは3ヶ月毎に行っている。家族の要望は電話連絡にて聞き取り現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は勤務者で行い担当がまとめを行っている、ミーティングや申送りノートで変化や気づきについては話し合い機会を設けている			

宮崎県都城市 星空の都グループホーム「ふるさと」(西館)

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	墓参りやご自宅に一時帰宅等を行えた			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な時は出かけていたが、現状は車の中から花をみに出かけたりしたいと計画はあった			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医への受診を行った。必要に応じご家族に報告連携した		本人や家族の意向を尊重しながら医療機関を受診し、協力医療機関との連携も図りながら、心身の健康管理に努めている。必要時には、職員が付き添い、受診を行い家族に報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤、夜勤の報告行い、また、ナースも共有を行い対応が速やかに取れる様にコミュニケーションを図った			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリー等も日頃より準備し円滑に必要な時の対応を取れるようにしている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年1回、確認を書面にて行うと共に時期が来た場合は説明と共に意向の再確認を行っている		入居時及び入居後も定期的にその心身の状態に合わせて、医学的管理の希望や終末期の意向の確認や話し合いを行い、安心して入居生活を送れるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルが準備しており、スタッフの目につく所にある。応急救護の研修も行っている			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設で全体の訓練、グループホームで月に1回訓練行っている。連絡網を作成しており、災害時の役割も決まっている		定期的に夜間・火事・地震の想定を行い、避難訓練を行っている。地元消防団とも意見交換などの連携が図れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った言葉や話し方、対応を行っている。プライバシーについても気を付けている		個々の性格や生活歴から慣れ親しんだ呼称や、介助・支援を行うことや利用者個人にあった生活空間を作ることで尊厳やプライバシーの確保を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のタイミングや選択を確認して業務を行っている		/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人に決めて頂き、どんな風に過ごすかを支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など購入は選んで頂き、好みのものであるようにし、身だしなみにも気をつけている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や選択食は好きなものを選択して頂き、提供している。また、片づけなど出来る事はして頂いている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士や看護師と相談して負担にならず栄養が摂れるようにしている。量の把握も毎日必ず行っている		/	

宮崎県都城市 星空の都グループホーム「ふるさと」(西館)

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをその方に合った方法で支援している			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の状況に合わせてトイレ等の介助を行い、出来るだけ気持ちよく排泄出来るようにしている。また、排泄パターンを把握し便秘などで苦しい事がないように支援している	個々の排泄状況を把握することで、排泄の失敗やおむつの使用を夜間など最小限にする取り組みを行っているほか、自尊心への対応にも十分な配慮を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や腹部マッサージ等を行いタイミングでのトイレ介助を行っている			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は声掛けでご本人のタイミングに合わせている。入浴出来ない場合の清拭や部分浴の対応もしている	個々の希望や身体状況に合わせて、入浴を実施したり、本人の状態によって機械浴や清拭などの対応も図っている。また入浴の時間も可能な限り夕方や夜間に入れるように取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望でソファなどで休まれることもあり、休む時間もその方の希望に合わせている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の準備は二重三重にチェックを行い、形もご本人の服用しやすい形で行っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集中して取り組めるものや好み楽しみごとを把握し提供している			

宮崎県都市 星空の都グループホーム「ふるさと」(西館)

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園外へは外出が難しい状況であるが園内での行事等で楽しんで頂いている。また、個別で墓参りなども行った		感染状況に合わせて外出が行えるように取り組んだり、代替として園内の行事の開催に取り組んでいる。またお墓参りなどの個別の支援にも取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	衣類の購入等でご本人に選んで頂いたが、お金を使う機会が出来なかった。園内の販売も途中まではあった			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じたりご家族との電話時とりついで話をしてもらったりしている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったりして目で楽しんで頂いている。床の絨毯をしたが、今のところ悪い影響はない		自然光での明るさが十分にあり、非常に穏やかな雰囲気の中に四季を感じる装飾や、掲示物、ピアノなどの家財があり、暖かな環境である。また食事の際は席の配置など感染症対策にも配慮が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の席があったり、お気に入りのソファがあったり、お互い好きな様に過ごせている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の部屋に写真などを飾り、居場所となる様にした。使い慣れた物の持ち込みは少ない		大きな窓がある居室は自然光で非常に明るく、トイレの設置やフローリングと畳の居室など状態に応じて居室の選択ができるようになってきている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすいようにトイレの手すり等設置している			